



土壤総合診断票 (野菜土壤用)

作成日: 9999年 9月 9日

〒080-2464 帯広市西24条北1丁目1-7
十勝農業協同組合連合会
農産化学研究所 Tel.0155-37-4326

◎サンプル情報

分析No.	受付日	農協名	請求者名	農家名
9999-1	9999年9月9日	1055十勝農協連分析係	1055十勝農協連分析係	999十勝農協連分析係
圃場番号	圃場面積	採取年月日	土壤の種類	備考
9-999	9.0 ha	9999年 9月 9日	10 褐色火山性土	

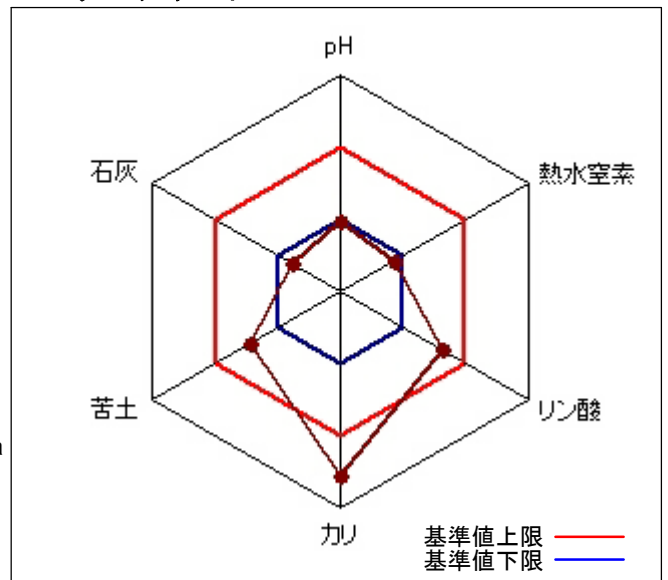
(1) 圃場来歴 (前年)

前作	有機物施用	緑肥
秋播小麦	完熟堆肥 1.0t	野生種インバク

(2) 化学性分析結果

	分析項目	前回分析値 分析No. 9998-1	今回分析値	単位	基準値	養分状態				
						低い	やや低い	基準値	やや高い	高い
一般項目	pH (H ₂ O)	5.6	5.8		6.0~6.5		★			
	有効態リン酸	31.2	24.3	mg/100g	15~30			★		
	交換性カリ	37.2	38.3	mg/100g	15~30				★	
	交換性苦土	28.4	33.7	mg/100g	25~45			★		
	交換性石灰	201.5	223.4	mg/100g	287~431		★			
	苦土・カリ比	1.8	2.1	当量比	2以上			★		
	石灰・苦土比	5.1	4.8	当量比	8以下			★		
	石灰飽和度	28.9	31.1	%	40~60		★			
	塩基飽和度	37.7	40.8	%	60~80		★			
微量要素	可溶性銅	0.35	0.42	ppm	0.5~8		★			
	可溶性亜鉛	2.98	3.19	ppm	2~40			★		
	易還元性マンガン	65.20	54.50	ppm	50~500			★		
	熱水可溶性ホウ素	0.72	0.85	ppm	0.5~1			★		
窒素	熱水抽出性窒素	3.51	4.28	mg/100g	5~8		★			
	全窒素	0.21	0.25	%						
	硝酸態窒素	0.61	0.61	mg/100g						
	アンモニア態窒素	1.07	1.07	mg/100g						
土壌性質	リン酸吸収係数	1402	1360							
	C E C	24.9	25.6	me/100g						
	仮比重	0.80	0.80							
	土性	壤土	壤土							
その他	腐植含量 (判定)	富む	富む							
	腐植含量	6.2	7.4	%						
	E C	0.48	0.56	mS/cm						
	置換酸度	0.52	0.52							

レーダーチャート



(3) 土壤改良資材必要量 (作土20cm当り全層) 単位: kg/10a

石灰資材	pH5.5	pH6.0	pH6.5
炭カル		125	397
リン酸資材	必要量		

(4) 施肥設計結果

作付予定作物 650500 長芋

単位: kg/10a

	項目	施肥の目安量				配合肥料主体				化成肥料主体					
		N	P	K	Mg	肥料名		施用量	肥料名		施用量				
基肥	分析値からの設計	17.0	30.0	12.8	3.5										
	有機物による減肥	-1.0	-1.0	-4.0											
	基肥施用量	16.0	29.0	8.8	3.5	N	P	K	Mg	円	N	P	K	Mg	円
追肥	分析値からの設計	5.0	1.5	3.8	2.0										
	追肥施用量	5.0	1.5	3.8	2.0	N	P	K	Mg	円	N	P	K	Mg	円
	基肥+追肥	21.0	30.5	12.5	5.5					円				円	

※この設計はあくまで目安です。農協・普及センターの助言のもとに施肥設計して下さい。

◎サンプル情報

分析No.	受付日	農協名	請求者名	農家名
9999-1	9999年9月9日	1055十勝農協連分析係	1055十勝農協連分析係	999十勝農協連分析係
圃場番号	圃場面積	採取年月日	土壌の種類	備考
9-999	9.0 ha	9999年 9月 9日	10 褐色火山性土	

(5) 物理性診断結果

採土管による分析				基準値
三相分布	気相率	40.4	%	—
	液相率	23.7	%	—
	固相率	35.9	%	火山性土 25~30 沖積土 40以下
重力水孔隙率 (pf1.5孔隙率)		40.4	%	15~25
易有効水分孔隙率 (pf3.0孔隙率)		9.4	%	10以上
容積重		0.8	g/cm ³	火山性土 0.7~0.9 沖積土 0.9~1.1
飽和透水係数		2.50×10^{-4}	cm/秒	$10^{-3} \sim 10^{-4}$

粒径組成 (国際法)		
粗砂	21.20	%
細砂	23.50	%
シルト	29.80	%
粘土	25.50	%

(6) 生物性診断結果

微生物活性			基準値
α -グルコシターゼ活性	458	pmol/g/分	火山性土 550~750 沖積土 350以上
病害検診			
パーティシリウム	1.2	個/乾土1g中	
馬鈴しょそうか病	3.0×10^4	個/乾土1g中	
センチュウ検診			
キタネグサレセンチュウ	10	頭/原土25g中	
キタネコブセンチュウ	0	頭/原土25g中	

(7) 総合評価

キタネグサレセンチュウの頭数が20頭/25g以上確認された場合、品質が低下する可能性があります。えん麦野生種など対抗植物を組み入れた輪作を行いましょ。生育と養分吸収は、8月頃から盛んになり、養分吸収根の分布も浅いことから分肥が合理的です。ただし、分肥は登熟が遅れないよう7月下旬までには終わらせて下さい。マルチ栽培では肥効が高まるので、多肥にならないように注意して下さい。

※この総合評価はあくまで参考です。農協・普及センターの助言のもとに土壌改良して下さい。